

医師が、がん患者に望むことは何か。金大附属病院がん高度先進治療センター長の矢野聖二さん(44)にがんと向き合う心構えを聞いた。

部位や進行の度合いで差はあるものの、早期にがんが見つかり、手術で切除することで治癒が見込める場合もあるが、5年生存率が1〜2割という厳しい現実が待つ場合もある。

矢野さんは「どんな場合であっても明るく、前向きであってほしい。医師は患者さんと一緒に戦うが、最終的には患者さんの姿勢が大切です」と話す。

年間100人担当

医師になって20年。矢野

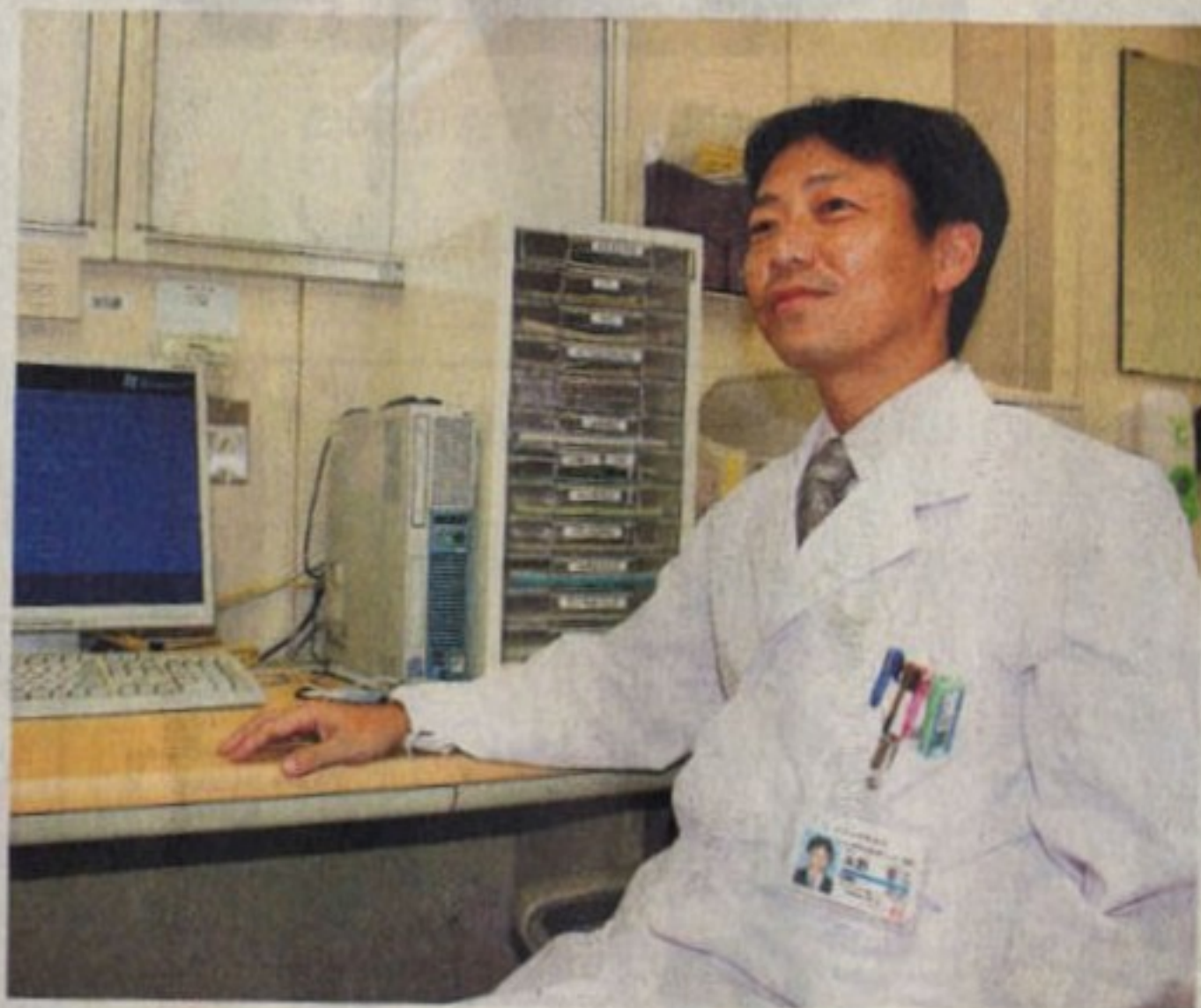
医師が望むこと

さんは年間約100人の患者を担当してきたという。がんへの態度は人それぞれだぞうだ。

早期の胃がんであることが告げると「じゃあ、手術をよろしく」と明るく応じる患者と出会う反面、がんの進行が深刻と知らされて、絶望に打ちひしがれる人もいた。

8月29日に金沢で行われた北陸がんプロフェッショナル養成プログラムの市民公開講座「がん患者大集合」が破壊に向けて(北國新聞社など主催)では4度のがん手術を経験しているジャーナリスト鳥越俊太

主治医を信頼して、納得のいく説明を受けることが大切だと語る矢野さん
—金大附属病院



郎さんが「命の残りを意識して感性が深くなった。がんになるのは悪いことばかりではない」などと講演している。

矢野さんは「69歳の鳥越さんの話を聞き、人生のや

がんと向き合う

りたいことをやった、という充実した思いが伝わってきた。しかし、がんになったのが40代の人ならどうか。パニックになる人もいるのではないかと語る。人もがんも千差万別。だれもが鳥越さんのような境地に達することができるとは限らないのである。

がんであることを医師から告げられた時に「頭が真っ白になる」と語る患者は決して少なくない。医学の発展でがん研究も長足の進歩を遂げたとはいうもの

説明を冷静に理解して

明るく前向きの姿勢を

の、不安はぬぐえないのである。その時、混乱に陥らず、早期に冷静さを取り戻すためには、がんについての正しい知識が欠かせないと指摘する。

「自身の病気がどんなものであるかを正しく理解することが重要です。(告知を受ける時には)冷静に受け止めるためにも医師の説明を家族と一緒に聞いてほしい」

インターネットで検索すれば、がんについて紹介するサイトが無数に表示される。新しい治療法を紹介するものもあれば、目には見えない精神的なエネルギーを利用する方法など、実にさまざまな手段が存在することが分かる。わらにもするが、思いの患者は何を信じらるべきなのか。

主治医を信頼

矢野さんは「主治医としっかりと話し合っって不安を解消して」と強調する。医師は患者のサポーターであるという。まず、主治医を信頼するところからがんと向き合っってほしいと力をこめた。

病気を、症状を、痛み苦しみを治し、健康な身体づくりを提供します。

東洋堂 真才

金沢市入江1丁目134まめだ大通り
☎(076)291-6666 (代)

◇「がんと向き合う」は毎週木曜日に掲載します。